

(1) 教員養成に対する理念・構想

①大学

本学の建学の精神は、「偉大なる平凡人たれ」という言葉に示されているように、社会人として地道な努力を重ね、平凡にも見えるひとつひとつの仕事に精一杯の力を傾け、その中で自分が大きく成長していくとともに社会の発展にも貢献していくことができるような人材の育成にある。そのためには、基礎的な教養と専門的知識を身につけ、自ら考える知力を獲得すると同時に、他方ではまた、つねに現場や他の人々の意見からも学ぶという謙虚な姿勢を持ち合わせていることが、大切な要件となる。そしてまた、その両面を合わせ持つことは、人格の倫理的陶冶そのものでもある。

本学の教職課程の目標・理念も、本学のこの建学の精神と不可分の関係にある。すなわち、自分がそうした「偉大なる平凡人」となることをめざすだけでなく、さらに、生徒たちを「偉大なる平凡人」へと育成することに力を傾注しようとする教育者の養成である。本学の教職課程では、「偉大なる平凡人たれ」という全学共通の建学の精神を背景として、とくに次のような諸点を念頭に置いて教育を行う。

- (1) 生徒に対して深い親愛の情を持ち、努力を惜しまぬ教育的情熱に満ちた教員を養成する。
- (2) 生徒や他の教員とのコミュニケーションを大切にし、つねに開かれた心を持った教員を養成する。
- (3) 自己陶冶に努め、絶えず自らの専門的知識・技能を高める意欲を抱いた教員を養成する。
- (4) 知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな教員を養成する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

スポーツ健康学科

イ. 教員養成に対する理念・構想

「人間」がよりよく生きるために、スポーツ界での競技力を向上させるための科学的なトレーニング指導やコーチングが実践できる人材や人の健康増進を支援し健やかなる身体活動を支援することができる能力を身につけた人材を広く社会全般に輩出するとともに、これからの保健体育教員として求められる健康運動指導やスポーツ指導に長けた専門知識を有した教員を育成する。

ロ. 教職課程の設置趣旨

スポーツ健康学科の教職課程は、スポーツ支援、健康支援、健康スポーツ支援、競技者支援など、学習者支援のできる中学校・高校の保健体育教員を養成するために設置しようとするもので、スポーツや健康に関する知識だけでなく支援者として実践できる教員を養成することである。そのためには、本学の教職課程での教員養成に対する理念の具体的内容を踏まえ、保健体育教員としての専門知識を有し、様々な課題に取り組んでいける実践的な指導能力のある教養豊かな人権尊重に関して良識ある資質を有する教員を輩出することにある。

ハ. 教職課程の質の向上や学生に対する責任ある教職指導のための組織的な取組を含めた教職指導体制

実践を通じた教職指導を軸にして、それに伴う知識と実技能力を身に付けるための指導体制を構築する。そのために教職課程の教育内容を定期的に点検して問題点を指摘できる組織を整備する。また、学生による授業評価を実施し、各教員にフィードバックすることにより教育活動の質の改善につなげる資料として活用する学内体制を整備する。

ニ. 教職課程の運営における都道府県及び市区町村教育委員会との連携・協力に関する取組

教育委員会と連携して、中学校や高校での授業の補助や課外体育活動の補助としてスクールパートナーシップ制度を確立し、学生を派遣するとともに、本学の保健体育教員と現場の教員とが共同的に授業実践研究を積極的に行い、研究成果を現場へ還元する。

(2) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごと）

スポーツ健康学科

中学校教諭一種免許状（保健体育）

我が国は、医学の進歩や環境の改善により、平均寿命80歳を超す世界有数の長寿国となっており、物質的豊かさ以外に健康で生きがいのある充実した生活、健康寿命の維持増進が求められている。本学科では、すべての世代の人々を対象に、人間科学、健康科学、スポーツ科学といった人間の在り方に直結する領域で研究・教育を行

っている。また「スポーツで人々を幸せに！」をスローガンとして、スポーツ科学の専門的知識を有し、且それらを実践的に活用できる人材の養成に努めている。これらの成果を基盤に、保健体育科における専門性および資質・能力の高い中学校教員の養成をすることに意義があると考えている。

さらに、サステイナブルな21世紀社会の中で、人々の健康と文化的な生活を保障しつつ「よりよく生きる」ということについて考究する人材育成に取り組んでいる。すなわち、学習指導要領が求める「心と体を一体としてとらえ運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践」を行い、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」と同時に、「健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことに努めることができる教員の養成を目指している。

そこで、本学科では保健体育教員養成として「教科に関する科目」において法定20単位以上修得の内訳を体育実技9単位、理論科目15単位以上修得とした。

体育実技の科目については、7つの運動領域に対応するため、体づくりをはじめ9科目を必修とし、これらの実技科目では、生徒の発育・発達段階、運動能力や体力の個人差を把握し、運動が好きになるような指導法について学ぶことを目的としている。一方理論科目については、主体的な学修が可能となるような指導法に工夫しながら、本学科専門基礎科目の必修である「運動学（運動方法を含む）」「公衆衛生学論」を含む卒業単位11科目、21単位分を配置している。これらの科目では、生徒が運動やスポーツに関する科学的知識を獲得できるように、さらには個人生活における健康管理・改善能力を育むことができるように、各専門領域における専門的知識を獲得することを目的としている。

以上のことから、学科の教育理念、および教職課程の設置趣旨により、中学生が義務教育段階で一つの得意な運動が身につくことを目標に、21世紀社会の教育現場で必要とされる保健体育科教員を養成しようとするものである。

高等学校教諭免許課程（保健体育）

医学の発展により、80歳を越す平均寿命を有する我が国では、物質的豊かさ以外に健康で生きがいのある充実した生活、健康寿命の維持増進が求められている。本学科では、健康科学・スポーツ科学を中核に据え、「スポーツで人々を幸せに！」をスローガンとして、研究・教育を行い、スポーツ科学の専門的知識を身につけると同時にそれらを実践的に活用できる人材の養成に努めている。このような教育環境の中において、保健体育科における専門性および資質・能力の高い高等学校教員の養成をすることに意義があると考えている。

さらに、次世代への持続可能な社会の中で、人々の健康と文化的な生活を保障しつつ、学習指導要領が求める「心と体を一体としてとらえ運動や健康・安全についての理解と運動の合理的、計画的な実践」を行い、「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる」と同時に、「健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」ことに努めることができる教員の養成を目指している。そこで、本学科では保健体育教員養成として「教科に関する科目」において法定20単位以上修得の内訳を体育実技9単位、理論科目15単位以上修得とした。

体育実技の科目については、7つの運動領域に対応するため、体づくりをはじめ9科目を必修とし、最も多く教材として取り上げられる「球技」については、サッカー、バレーボール、バスケットボールの3種目を配置している。これらの実技科目では、生徒の発育・発達段階、運動能力や体力の個人差を把握した指導について学ぶことを目的としている。一方、理論科目については、主体的な学修が可能となるような指導法に工夫しながら、本学科専門基礎科目の必修である「運動学（運動方法を含む）」「公衆衛生学論」を含む卒業単位11科目、21単位分を配置している。これらの科目では、生徒がスポーツに関する科学的知識を獲得できるように、さらには個人生活及び社会生活における健康管理・改善能力を育むことができるように、各専門領域における専門的知識を獲得することを目的としている。

学科の教育理念、および教職課程の設置趣旨により、保健体育科必修の最終段階である高等学校で豊かなスポーツライフおよび健康についての自己管理能力の形成を目標に、21世紀社会の教育現場で必要とされる保健体育教員を養成しようとするものである。